

上野天神祭：東町

「しるし」は「逆熨斗（さかさのし）」と呼ばれ、「逆さになった熨斗」を意味している。これは、のし「斗」の漢字が元の「しるし」の中央の扇面に逆さまに書かれたためである。現在の「しるし」は1978年に作られた。

東町の「だんじり」桐本は、東町の菅原神社の敷地内にある桐の大木にちなんで命名された。この「だんじり」には、水引幕は備わっていないので、普通は隠されている小部屋が開かれている。横と後部の胴幕には「蘭亭曲水の宴図」が刺繍されている。

「だんじり」自体は、菊、牡丹と縁起の良い松竹梅で覆われている。桐本「だんじり」の伴奏は独特である。他の「だんじり」には通常、強いリズムカルな旋律を伴うが、桐本「だんじり」の演奏者は、小さな摺鉦、太鼓、篠笛、鼓および三味線を使用して、穏やかで雅な曲を演奏する。